



■第2次四万十町総合振興計画について
本議会に提案しています「第2次四万十町総合振興計画」の策定にあたっては、今後のまちづくりに対する町民の声を広く反映できるように町民を対象として第1次総合振興計画の取組や人口減少に関するアンケート調査を行ったほか、学生を対象としたアンケート調査、主要な産業団体等のヒアリング調査、まちづくりワークショップなどを行ってきたところです。

本年6月には素案を取りまとめこの計画に関する諮問機関である「総合振興計画審議会」に諮問を行い11月に答申をいただきました。

答申では、意見公募による意見の反映を含む「一部修正」と「町民への周知・共有」「協働のまちづくりの推進」「地方創生の推進」「進化管理の強化」と評価による着実な計画の推進を要望するものとなっております、その後庁内で設置している「総合振興計画推進本部」において、答申を基本とした計画の最終案を取りまとめたこと

■四万十町高校応援大作戦について
本町では、人口減少社会を見据えたまちづくりを進めるため、その基盤となる人材の育成を最重要課題として、戦略的に取り組んでいるところです。

この取り組みの中では、人材育成の場である県立窪川高校と四万十高校の現状と課題を踏まえ、生徒自身と高校本来の魅力を高め、入学者の増加と活性化を目指したプロジェクト「四万十町高校応援大作戦」を展開しており、柱となる高校生対象の町営塾「じゅうく」を11月1日に開塾しました。

この町営塾が、進学や就職に必要な学力の向上、希望する進路の実現

■奥四万十博クロージングについて
高幡5市町の観光資源やイベントなどを磨きあげ、多くの来訪者にリピーターとなっていたため、受け入れ体制の整備と、来訪者の増加につながる観光振興を推進するために奥四万十の魅力を知っていただき多くの方に訪れていただく旅の誘客キャンペーンとして開催してきた2016奥四万十博が12月25日に閉幕となります。

開催期間中には、町内外から多くの方に訪れていただきましたが、12月23日に、旧役場本庁舎跡地をメイン会場としてクロージングイベントを開催したところです。

開催会場である本町では、高幡5市町の奥四万十博推進協議会や商工会、観光協会と連携し、関係する商店の皆様や住民の方のご理解とご協力をいただきながら、町の観光施設や商店を活かした企画を検討しており多くの来場者をお迎えする準備を進めています。

最後に、この奥四万十博期間中にサポーターとしてご支援とご協力をいただきました事業者や住民の皆様

■民泊事業について
本町の宿泊施設については、観光振興の面からも対策が必要となっておりますが、大規模な公共宿泊施設の整備には多額の経費や運営などに課題があるため、商工会や観光協会と協議・検討し、実施が可能な民泊事業を進めていくこととしています。

まず、第1弾として来年3月末に開催する四万十川桜マラソンのランナーを対象としたイベント民泊事業に取り組みます。

民泊については、旅館業法をはじめ食品衛生法や消防法などの規定で課題がありますが、現在、国が民泊の緩和を踏まえた旅館業法の見直しを行っており、その内容を注視しながら進めていく予定です。

最近では、空き家住宅をゲストハウスやお遍路ハウスに活用する事例などがあり、このような活用方法も踏まえた取り組みにより、地域特性に沿った宿泊施設を増やししながら本町の自然環境や地域の暮らし体験を活かした着地型観光を推進に努めたいと考えています。

この民泊事業を推進するため、町民の皆様をはじめ観光協会、商工会等、関係機関の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

平成28年12月 四万十町議会 定例会 町長行政報告(要旨)

七里地区防災キャンプ

11月20日、四万十町こども防災キャンプin七里小学校を行いました。これは子ども達が家族や地域とともに災害についての知識を学習し、対応方法を身につけることで、自分の命を守るようにするための「授業形式体験型学習方式」の防災教育イベントです。

当日は、先生や生徒と保護者、地区の住民など多くの方々が参加しました。このキャンプでは起震車体験、降雨体験、初期消火訓練、炊き出し訓練など様々な訓練や体験を行いました。



交通安全啓発餅つき大会

12月6日、四万十町交通安全母の会・交通安全協会窪川支部が主催で窪川警察署において、交通安全啓発餅つき大会を行いました。当日は窪川小学校6年生44名を迎え、赤・青・黄色の信号機になぞらえた三色のお餅作り体験を行ったほか、ドライバーに対して交通安全啓発品の配付も行われました。



中津川集落活動センター「こだま」落成式

12月3日、大正中津川集落活動センター「こだま」の拠点施設が完成し、落成式が行われました。

昨年2月14日に開所した「こだま」の拠点施設として建設したもので、四万十町産の木材をふんだんに使用しています。また、地域の方々からも貴重な地元木材等の寄贈を受け、木の里中津川らしい施設となりました。今後は大正中津川地区が指定管理者として様々な集落活動を行うこととしています。



をはじめ、関係各位の皆様にお礼を申し上げます。